

第45回全国豊かな海づくり大会の大会名称（副題）について

○大会名称:第45回全国豊かな海づくり大会～○○おおさか大会～

○副題の考え方及び候補

<考え方>

- ①豊かな海を想起できる名称であること。
- ②国民的行事であることを鑑み、歴史や風土等に由来する名称であること。
- ③大阪全体をアピールできる名称であること。

<大阪府内沿岸市町・大阪府漁業協同組合連合会の集計結果>

No.	副題	名称の理由	集計の状況	
				意見
1	茅渟(ちぬ)の海 おおさか大会	「茅渟」は和泉と淡路の間にある海の古称で現在の大阪湾一帯を示し、歴史的にもゆかりがある。大阪湾で多獲されるクロダイの地方名「ちぬ」の語源であるとの説や、大阪湾を望む地域の校歌に広く歌われるなど、府民に親しまれる豊かな「茅渟の海」のイメージを全国に発信できる。	2	・「魚庭の海」は魚庭の海づくり大会と混同するおそれがあるため、歴史のある「茅渟の海(ちぬのうみ)」がよい
2	魚庭(なにわ)の海 おおさか大会	大阪を示す「なにわ」の語源は魚の豊かな海を表す「魚庭」であるという説があることから、豊かな海のイメージを全国に発信できる。また、全国的にも「なにわ」の呼称は大阪をイメージしやすい。	6	・大阪をイメージしやすく、魚庭とかけられており語呂もよい ・全国的にも「なにわ」の呼称は大阪をイメージしやすい ・魚の豊かな海を表す「魚庭」を用いることで、漁業振興という大会目的にも合致する ・「魚庭の海づくり大会」等も例年開催されており、親しみがあるのと、大阪をイメージしやすい
3	食の都 おおさか大会	大阪は昔から食にまつわる文化が育まれたことから「食の都」として親しまれ、「食の都・大阪」としてブランド化が進められており、水産物を含めた大阪の食文化を主要な観光資源としてPRしていくことを全国に発信できる。	2	・食文化として水産物も多く使用されており、PRにつながる。また、シンプルでわかりやすい ・府外の方にも老若男女を問わずに広く伝わりやすい
4	天下の台所 おおさか大会	大阪は江戸時代から交通の要衝であり、特産物などの集散によって経済的に中心地となったことから「天下の台所」とも呼ばれた歴史を有し、商業都市大阪であることを全国に発信できる。	1	・候補のなかで、多くの方が受けている日本史の授業において、大阪は江戸時代における最大の商業都市「天下の台所」として紹介されており、世間的認知度が最も高い
5	副題なし	—		
6	いずれでもよい	—	2	

<参考>過去の例

年度	開催県	副題を含む大会名称
令和元年	秋田県	第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会
令和3年	宮城県	第40回全国豊かな海づくり大会～食材王国みやぎ大会～
令和4年	兵庫県	第41回全国豊かな海づくり大会兵庫大会～御食国ひょうご～
令和5年	北海道	第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会
令和6年	大分県	第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～
令和7年	三重県	第44回全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～